

亡くなった娘からの生命のメッセージ

Y. E

1999年12月26日、午前4時に掛かってきた智頭警察署からの1本の電話。そこから、私の時計もカレンダーも狂い、人生もこれまでとは全く違うものになってしまいました。娘が交通事故に遭い、入院したので鳥取市内の病院に来てください、というものでした。

当時、鳥取大学教育学部に在学中の3年生、もうすぐ、お正月で島根に帰省するのを楽しみにしていた時でした。卒業を1年後に控え、教育実習も済ませ、卒論の題目と担当の先生を決め、就職活動を開始した矢先のこと。飲酒運転の暴走車が反対車線からぶつかってきて、一緒に乗っていた二人の友人と一緒に亡くなったのです。

あれから、13年。今年も12月が近づき、街はクリスマスの装いになってきました。この頃から「命日病」が再発します。年賀状はあれ以来、一度も出せません。娘が書いた年賀状は、亡くなった後のお正月に、広島の小学校の6年担任の岸先生のもとに届きました。

「あけましておめでとう。もうすぐ、小学校を卒業して十年が経ちますね。タイムカプセルを開けるのが楽しみです。先生のお子さんも大きくなったんでしょうね。私は今年、就職活動と卒論で大変な年になりそうだけど頑張ります。

真理子

2000. 1. 1」

この文字が虚しいばかりです。そして、私は2000年12月、広島の皆実小学校にタイムカプセルを掘り起こしに娘の代わりに行って、受け取って来ました。土の中からは「将来の夢」と書かれた作文が出てきました。美容師か保母さんになりたいと・・・

その夢は大人になるにつれて変わっていきましたが、事件によって無惨にも叶うことはありませんでした。生きていて欲しかった、結婚するところが見たかった、赤ちゃんが見たかったと、今も思います。

娘が亡くなった後、生命のメッセージ展に参加するようになり、すでに114回の巡回展が全国で開かれ、先日は懐かしい生まれ故郷の広島で開催されました。崇徳学園の1400人の生徒全員に「命の授業」をさせて頂きました。亡くなった三浦伊織君の学校です。静かに熱心に聞いてくれましたし、あくる日のメッセージ展には、多くの方が来場して155命のメッセージャーに出会って下さいました。

終わったあくる日、よく行った比治山に登り、そして、安芸幼稚園、皆実小学校に寄ってみました。あの運動場、あの遊具、あの校舎、全てが思い出の景色。

山口県といえば、私の母の故郷です。娘にとっては祖母になるのですが、生きてまみえることはありませんでした。私の母は、私が高校2年生で亡くなってしまったのですから。

娘は、その山口県岩国市の方と亡くなる直前、ご縁がありました。娘は専攻の英語を生かしてツアーコンダクターになりたいと思って、大学2年から3年には語学研修で10カ国を訪れていました。その費用は全て自分のアルバイトのお金でした。事件に遭う12月にも鳥取のホテルでアルバイトをして、たまたま岩国からいらしていたお客様に出逢い、広島方面の旅行業者への就職依頼をしたそうです。その時のことを亡くなってから、頂いたお手紙で知りました。

生前、働く娘の姿が写されたビデオも一緒に送っていただきました。まだ、この方にはお会いしたことがないのですが、お元気なうちに、お礼を言いに行きたいと思っています。

下記のお手紙が数井さんから頂いたお手紙です。

「真理子さんへ

あなたは私との約束を破って、私たちの手の届かぬ所へ旅立ってしまった。いくら旅行が好きと言っても、余りに遠すぎる。年が明けたら知人に話してみるつもりでした。

ご両親も正月には帰ってくると楽しみにしておられたらうに、あんな形で帰って来るとはご両親も思っていなかったことでしょう。

今はどこあたりを旅してるかな？お姉さんのおられる京都で本願寺など、親友3人でゆっくり旅してるかな？私も来年はドイツに行くつもりです。あなたの旅した所を見てくるつもりです。

美しい素直なあなたなら、きっと、天国でも人気者で皆さんに可愛がってもらっている事でしょう。天国で、あなたが3年間学んだ英語をみなさんに教えてあげて下さい。また、この世の色々なことを先に逝かれた方々に話してあげてください。

ご両親にあなたのビデオをダビングして送ります。

さようなら、真理ちゃんへ

たった4時間余を一緒に楽しんだ数井より」

未だに事件や事故がなくなることがありません。毎日、報道される理不尽な死。法律を改正して厳罰化するため、必死に署名を集めました。法律は変わりました。でも、法律を変えただけでは変わらないものがあります。人の心を変えなくては・・・と。私たちは生命のメッセージ展を開催し、命の授業をし、講演をし、命の大切さを社会に発信し続けています。

亡くなってから考えるのでは遅いのです。他人事ではないのです。いつ、自分の身に降りかかるか、分からないのです。どうか、宝物だった娘たちの命が無駄にならないよう、生かされるように、願っています。

最後に、娘からのFAXの一部を紹介します。兄弟3人の真ん中で、2歳上の姉、3歳下の弟がいました。弟が勉強しないので愚痴のFAXを送ったら、返事が来ました。

「お母さんへ

あんまり くよくよ悩みんさんな。納得のいく人生 送っとる人なんか

少ないじゃん。お母さんがお父さんと結婚せんとうちも、お姉ちゃんもやっちゃんも生まれかかったし。やっちゃんもそんなに悪い子じゃないよ。もっと、偉い子も一杯おるけど、もっと、悪い子も一杯おるよ。私はどうか知らんけど。鳥大に来て後悔はしてないよ。もし、私立に行っとったら凄い事になっとただらうね。お金が。悠子の事もあるし、やすけは進学するかどうかもわからんけど、・・・今は結構楽しくやってるよ。こないだは、肉じゃが作ったし、一杯作って冷凍してある。前に作ったカレーも冷凍してあるよ。私はお母さんとお父さんが両親で良かったと思っとるし、お母さんがそんなにくよくよしよったら、こっちまで暗くなってくるじゃんか。

子どもの幸せは親の幸せだし、親の幸せは子どもの幸せじゃろ？うちもこれから、人生どうなるか分からんけど、頑張るわ。

真理子より」

事件から13年経ち、また、同じ季節が巡ってきました。

今、真理子の姉は京都でフリーのライターを、弟は東京でファッションデザイナーをしています。この13年間の歳月を悲しみをこらえ、必死に努力して今の仕事に励んでいます。娘は生きていれば34歳。きっと、夢を叶え、結婚もし、子どもにも恵まれてお母さんになっていたかも知れません。その姿は想像できません。母親の私はもう少し、やり残したことを頑張りたいと思います。同じような想いをする人がこれ以上出ないように、また、娘の生きてきた証を残すために。